

## 情報処理学会情報企画調査会 国際規格開発賞

20世紀に入り情報技術の急激な進歩が人類社会の歴史的な変革をもたらしました。

そこで、人類が21世紀に向けて持続的で幸福な成熟した社会を実現していくためには、社会活動の前提となる高品質な情報化社会の実現が重要な課題となっています。

このような状況認識のもとに、筆者らは、過去約30年間にわたり、ISO/IEC JTC1 (International Organization for Standardization/International Electro Technical Commission / Joint Technical Committee1 :国際標準化機構・国際電気標準会議合同委員会) SC7 WG6 および (財)日本規格協会 で、ソフトウェア及びシステムの品質評価や管理技術の研究・開発および国際標準化の取り組みを進めてきました。



### SQuaRE 全体の構成

( JIS X 25001 : 2009 図1 SQuaRE 規格の構成引用

そのような中で、2002年度から第2世代標準として、新たに品質要求定義プロセスやデータ品質の評価にもスコープを拡大した ISO/IEC25000 (SQuaRE : Software and System product Quality Requirements and Evaluation) の開発に着手し、現在も、開発

を継続しています。図1に示すように SQuaRE は品質要求、品質モデル、品質管理、品質測定、品質評価の5つの部門から構成されています。一方、近年、来るべき情報化社会実現の前提となるデータ品質の向上に向けた技術が立ち遅れているという課題がありました。

そこで、品質モデル部門の国際標準として、2006年にデータの品質を評価するための品質モデルを規定した ISO/IEC 25012: Software engineering – Software and System product Quality Requirements and Evaluation (SQuaRE) – Data Quality model (データ品質モデル) が制定され、2012年には対応する日本工業規格として JIS\_X25012 が制定されました。

さらに2016年、ISO/IEC 25012に規定された品質モデルの視点から、データの品質を測定するための測定法を規定した ISO/IEC25024: Software engineering – Software and System product Quality Requirements and Evaluation (SQuaRE) – Measurement of Data Quality (データ品質測定法) が制定されました。ISO/IEC25024は、あらゆる社会活動や研究活動のベースとなる情報の品質そのものを高めるためのデータ品質の改善に向けて、データの標準的な測定方法を提供しています。

筆者は2003年から2006年まで ISO/IEC25012、2011年から2016年まで、ISO/IEC25024のドキュメントエディタとして規格の開発を担当しました。今回の受賞は、ISO/IEC25024の開発に対して行われたものです。本規格は引き続き日本工業規格として本年度、制定のため作業を進めています。